

項目番号	ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段	具体的取組と達成状況（成果と課題）	進捗状況	自己評価	関係者評価
1 知育 ビジョン	① 全員参加・ICTを活用・キャリア教育の推進 → 学びたい度80%・ICTの積極活用100% ・対話による学び合い重視・「鍛える」指導の重視 ・確実な見届け（ゴール問題による理解確認） ・ 学年の発達段階に応じた一部教科目単任制の実施 ② 家庭との連携・家庭学習の工夫改善 ③ 読書活動の推進→ 平均図書貸出冊数80冊/年 ④ 基本的な学習習慣の確立 → 立腰、鉛筆の持ち方100%	① 全員参加・ICTを活用・キャリア教育の推進 ○学年の発達段階に応じた一部教科目単任制を実施予定。 ○ICTの活用や対話を軸にした授業改善を全職員で行い、学力向上を目指す。 ② 家庭との連携・家庭学習の工夫改善 ③ 読書活動の推進→1学期で年間目標冊数を突破。 ④ 基本的な学習習慣の確立 ▲立腰、鉛筆の持ち方の指導の徹底を図る必要がある。	▶ 学びたい度 74.3% (10月) ▶ タブレット活用状況 全学級で活用 ▶ 平均図書貸出数 176冊(12月) ▶ 立腰 81% (10月) ▶ 鉛筆持ち方 71% (2月)	3	3.3
2 徳 育 の た め	① いじめや不登校の早期発見・早期対応 ・教育相談の充実・児童同士の協働の場面設定 → 不登校0、いじめ認知解消率100% ② 基本的な生活習慣の徹底・挨拶・返事・靴並べ等の徹底 → 挨拶・返事等達成度90% ③ 豊かな心の育成 ・道徳・人権教育の充実 ・清掃指導の徹底（静寂の音を聞く清掃・一所懸命） ・いじめや不登校・挨拶の励行・ボランティア活動の励行	① いじめや不登校の早期発見・早期対応 ② 基本的な生活習慣の定着 ○『いじめや不登校』の中学生と合同の挨拶運動により、しっかりと挨拶や返事ができる児童が増えてきている。会釈の習慣が身に付いている児童が増えてきている。 ③ 豊かな心の育成 特別の教科道徳の完全実施といじめ・人権教育対応策の充実 ○道徳の授業を中心に課題を自分の問題としてとらえ、考えさせる授業の充実を図った。 ○コロナ禍における人権教育も発達段階に応じて実施できた。（人権教室も学年別実施） ※「偏見・差別」を「尊敬」「感謝」「思いやり」に変える取組	▶ いじめ認知解消率 100% (11月) ▶ 挨拶・返事達成度80% (10月)	3	3.5
3 点 体 育 目 標	① 体力向上プランによる基礎体力・運動能力の向上 ・運動の楽しさを味わわせる指導方法の工夫・改善 ② 病気の予防と治療率向上 ・虫歯や眼疾の治療促進→ う歯治療率100% ③ 保健指導の充実 ※ フッ化物洗口実施 ・養護教諭との連携を図った個別指導の充実 ④ 家庭との連携した基本的な生活習慣の定着 ・家庭と連携した早寝・早起き・朝ごはんの定着 → 朝食摂取率90% ・保健便り及び学校保健委員会の充実による啓発	① 体力向上プランの工夫・改善 ○校内において、体力コーナーを設置し昨年度の体力テストで落ち込んだ項目を高める。 ○体育委員会を中心に逆上がり教室を実施し、基礎体力の向上を図る。 ② 虫歯の治療率の向上 ○歯の健康指導を全学年で実施できた。 ▲個別のう歯治療の動きかけの徹底 ※ フッ化物洗口実施 ③ 全校無欠席運動の推進 ○登校をしる児童が数名いる。欠席がちな児童がいる。	▶ う歯治療率75% (1月) ▶ 朝食摂取率 94% (11月) ▶ 全校無欠席17日 (3月9日現在)	3	3.3
4 食 育	① 食への正しい理解と食習慣の定着 → 給食感謝週間や弁当の日実践100% ・正しい箸の持ち方100% → 食に関する授業実践（栄養教諭等も活用）100%	① 食への正しい理解と適切な食習慣の定着 ○弁当の日の取組も充実し、定着も図られている。 ○各学年で発達段階に応じた食育指導も実践できている。 ▲家庭との連携を図り、栄養も考慮した朝食摂取率を高めていく必要がある。	▶ 弁当実践 97% (9月) ▶ 全学年で実施	3	3.3
人 材 育 成 行 動 計 画 関 与 す る	① 職員のキャリアプランに基づく人材育成 ○教職員の評価制度を活用したフィードバック ○学校運営への参画意識を高める校務分掌の推進 ② 教職員の働き方改革の推進 ○ 自分の働き方を改善できるような意識改革 ・ 自分の時間・生き方・家族を大切に する視点 ・ 教員の常識を見直す視点（業務を束ねるペクトル化等） → 月45時間以上の超過勤務1人	① 職員のキャリアプランに基づく人材育成 ○オンライン中央研修等、職員の研修機会の充実が図られた。 ○コロナ禍をきっかけに、職員が危機意識を高め、適切なFB称賛を行うことで、主体的に学校運営への参画する意識が高まってきた。 ② 教職員の働き方改革の推進 ○コロナ対応で職員自ら働き方を見直す機会となった。 ○単なる簡略化ではなく本質を見失わない改革の推進	▶ 月45時間以上の超過勤務 1人	3	3.8